

釧路市教育委員会 令和6年第12回6月定例会会議録

- 1 日時：令和6年6月28日（金）13時30分から15時00分まで
- 2 会場：Digital Station デジラボ（釧路市錦町5丁目3 三ツ輪ビル1F）

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、齊藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曾根美術館長、秋葉博物館長、鈴木園長、二瓶担当係長、辰山総括係長

- 4 議事録署名人 小出委員 榎山委員

- 5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- （1）令和6年第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について
- （2）令和6年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について
- （3）令和6年能登半島地震文化財レスキュー活動報告について
- （4）学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】報告事項

- (1) 令和6年第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和6年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について

(大島総務課長)

報告事項1、令和6年第3回釧路市議会6月定例会の議決結果について報告する。

先月の教育委員会において承認いただいた2件の補正予算案、議案第67号から72号の新学校給食センターに係る「財産取得の件」及び議案第76号のヒグマ舎改修工事に係る「工事請負契約の締結に関する件」については、すべて原案どおり可決された。

また、釧路市報告第14号の負傷事故に係る「専決処分報告の件」については、報告完了したことを報告する。

続いて報告事項2、令和6年第3回釧路市議会6月定例会の審議内容について報告する。

令和6年第3回釧路市議会6月定例会の一般質問については、日本共産党議員団、小山秀人議員より「教員の働き方について」、日本共産党議員団、西村雅人議員より「戦争遺跡の保存について」、自民市政クラブ、大澤恵介議員より「スポーツ合宿について」、日本共産党議員団、梅津則行議員より「釧路市の学校のあり方等教育行政について」ご質問をいただき、それぞれ答弁を行った。

尚、詳細については質疑要旨のとおりとなる。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

### 【公開案件】報告事項

- (3) 令和6年能登半島地震文化財レスキュー活動報告について

(曾根美術館長)

報告事項3、令和6年能登半島地震文化財レスキュー活動報告について報告する。

先日報道もされていたとおり、当館学芸員2名が能登半島地震被災地での救助活動を行っていたところだが、活動を終えて帰釧したので、改めて報告する。

派遣期間においては、1名が6月3日から6月7日までの5日間、もう1名が6月10日から6月14日までの5日間であり、石川県の輪島市や珠洲市などにおいて、救援活動に従事したところである。

活動内容については、資料にあるように、神社にある文化財や個人宅にある書画や絵画等の文化財について緊急避難場所に移動させる救出作業を行ったほか、救助要請のあった施設の現地視察や必要物資の確認などを行う調査業務に従事したところである。

被災地では今後もこの救援事業が続いていくことが見込まれるため、一日も早い復旧・復

興がなされ、貴重な文化財が後世に確実に引き継がれていくことを願うところである。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

要請に基づいて派遣されたということだが、この事業はこれで終わりとなるのか。今後継続して要請がある可能性はないものなのか。

(曾根美術館長)

現在も引き続きこの事業は続いているところである。

(岡部教育長)

また、能登半島に学芸員が行く可能性はあるのか。

(曾根美術館長)

まだ事業としては最初の段階で、今後要請があれば向かう可能性はある。

(山口委員)

博物館ではこういった事業は考えられないのか。

(秋葉博物館長)

可能性は十分あるかと思う。今回派遣要請があったのがたまたま美術部門だったということとなる。過去に博物館における同等のネットワークがあり、物の移動や一時預かり等を行っていることを学芸員から聞いている。

(岡部教育長)

今回の美術館の派遣については、全国美術館会議が仕切り行われた。博物館でも同種の全国団体がこのような形で、各地の博物館に要請をしたことがあったように記憶している。釧路市としてはこういった活動にも積極的に対応すべきだと思う。

#### 【公開案件】報告事項

##### (4) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項4、学校の現状について報告する。

6月は小学校の運動会シーズンを迎えており、5月31日の阿寒湖義務教育学校スポーツフェスティバル、運動会としては6月8日の芦野小学校、山花小中学校を皮切りに、これまでに22校が無事終了し、残すは明日29日に予定している4校のみとなっている。その運動会だが、今年度も釧路市内は全ての学校で午前中の開催、昼食なしのスタイルで行われている。コロナ禍でのこのスタイルが定着した感じで今は続いている。

また、中学校の修学旅行は、隔年実施で行われる音別中学校は、今年度は未実施であることを除いては、阿寒湖義務教育学校後期課程を含む14校すべてで終了している。

中学校の修学旅行だが、コロナ前には3泊4日の札幌、小樽、留寿都方面が主流であった。

コロナ禍の際に2泊3日と短縮されたのを機に、ポストコロナとなった今年度は、そのまま2泊3日を継続しているところが10校、従来通りの3泊4日に戻して行われたところが4校という実態である。旅行費用も年々高騰し、保護者の経済的負担軽減や授業日数の確保、引率教員の負担軽減などから短縮がされている主な理由と考えられる。一方では本来の目的達成のためには3泊4日が妥当であると判断して、コロナ前のスタイルで実施している学校もあり、今後は教育的、経済的など様々な面から日程・内容の見直しが必要とされる状況となっている。

運動会や修学旅行をはじめとする各種学校行事、あるいは日々の授業の中での端末の活用場面や話し合い活動の設定など、教育活動のあらゆる場面で目的意識をはっきりさせることが重要との認識を改めて各学校長に伝えたところである。

道教委は毎年、5、6月をコンプライアンス確立月間と設定しており、先般の釧路管内コンプライアンス確立会議には釧路市教育委員会からも齋藤学校教育部長が参加した。

釧路市の事案ではないが、他管内において発生した体罰事案や職員室内での窃盗事件をはじめ、相変わらず教職員による不祥事が後を絶たない現状が続いている。

釧路管内の重点目標はこれまでの3点から今年度は5点に変更となり、各学校において全体研修と個人研修の確実な実施を行い、不祥事防止についての指導と啓発を改めて全校に指示したところである。

教員の働き方改革については、本市はもとより全国的な教育の重要課題の1つとされている。これまで定期的に啓発、指導、情報提供等を繰り返してきたが、各学校におけるコアチームの設置状況を改めて調査した結果は信頼に記載の通りである。

コアチームを設置して、学校のDX化が進んだ、朝打ちや夕打ちを廃止した、担任業務を分担化した、校務支援システムの活用が進んだ等、徐々に実感を得るような成果が表れ始めている学校もあるので、今後も校長会と連携して、積極的な情報交流を進めてまいりたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

コロナが終わり、その後インフルエンザの流行があったが、こういった時期に、運動会では各学校がどのような工夫をしながら行ったかということを、校長会で集計しながら進めていたと思うので、良い取組みを参考にしながら、このような形の運動会を釧路市では行っているということを共有しながら進めていただきたい。

修学旅行は2泊3日と3泊4日に日数が分かれているのが気になる。中学校の校長会で情報交換をすると思うが、中身を工夫するなど可能であればある程度の指針があったほうが良いと思う。意見を伺いたい。

(本川教育指導参事)

運動会の件について、コロナの初年度のときには、全国的な国や道の指導があり、飲食禁

止ということから、午前開催ということで通知を出し遵守していた。それが続いているようにも思えるが、以前から札幌市は午前中開催で行っていたという事例もある。今回、釧路市内はすべて午前開催ということであったが、調べてみたところ、釧路管内はすべて午前開催であることを確認した。また他都市の苫小牧市、帯広市、旭川市、函館市の4市に聞いてみたところ、苫小牧市の1校を除いて、函館市、旭川市、帯広市共に午前開催ということであった。これはコロナが原因かは別として、全国的な傾向として今後も進んでいくように感じる。ちなみに阿寒湖義務教育学校では、スポーツフェスティバルを平日の5月31日、午前中に行っており、午前中で平日だったので、児童生徒は給食を食べたあとに下校させたとのことである。

修学旅行の点については、2泊3日と3泊4日に分かれているところであるが、学校から聞いた話や、私が学校現場にいたときのことを考えると、単に経済的負担のみならず、おそらく3泊4日に戻している学校は、キャリア教育の一環として、多くの部分を修学旅行に合わせており、札幌市や小樽市で行った自主研修の中で様々な課題に取り組み、聞き取り調査を行った上でその結果をまとめるといった活動を行っていることから3泊4日が必至ということで戻していると思われる。但し学校の行事としての所謂旅行的行事という意味合いが強い学校は、2泊3日でも目標達成ができると判断していると考えられる。今後は統一する必要があるかどうかも含めて、保護者の声も聞きながら、校長会で話題にしていきたいと考えている。

(大山委員)

運動会を午前開催にするのは良いと思うし、総練習等がなくなって教科学習に力を入れられる点も良いと思う。小学校でいうと実施する組み合わせが、はじめに低学年、次に中学年、最後に高学年を実施する学校があれば、中には1年生と3年生で組むなど、学年の組み合わせ方を工夫している学校もあるので、そういった点を校長会の中で情報交換して、良い取り組みになるようにしてもらえたらと思う。

(本川教育指導参事)

今年度の実績として、大規模校では物理的に一度にできないというのが主な理由となるが、昭和小学校では、2学年ずつ3つに分けて、1時間ごとに区切り午前中に行っている。また愛国小学校が3学年ずつ前半と後半に分けて行い、保護者席が密にならない工夫をしていた。それ以外の学校は種目数を1つずつ減らすなどの工夫をして、従来14時まで行っていた運動会を午前中に集約して実施するという工夫を行っている。

(小出委員)

学年を区切って行っている学校があるということだが、低学年の子が高学年を見て学ぶところは大きく、縦のつながりもできてくるので、その点も配慮してほしいということを校長会で共有していただきたい。

阿寒湖義務教育学校は9学年で一緒にやるのだと思うが、そうすると種目や人数も増えるので、午前中で終わるのが心配だがどのように実施しているのか。

(本川教育指導参事)

午前中に収めている。30年以上前は800～900人の児童がいて、徒競走についても1組目がスタートをして、コーナーをまわったら2組目をスタートさせるというように時間短縮となる進め方をしていた。現在では昭和小学校と愛国小学校は大規模校であるが、その他の学校については通常通り開催しても午前中には終わるくらいの児童数になっている。

(山口委員)

音別の小中学校が義務教育学校になる前に、学芸会や運動会を合同で行うとのことだが、1日日程で行うのか、または半日日程で行うのか。

(本川教育指導参事)

半日日程である。

(小出委員)

資料に掲載されているキャリアシンポジウムについて、私たちも拝見したが、年々充実した内容となっている。今年は特に子どもたちの発言や対応が良く、従前は用意していた質問をしている様子が目立っていたが、今回は小向理事長と岡部教育長の話聞き、その上で質問している様子が見られ、子どもたちの受け止め方が変わってきていると見て実感できる内容だった。小学校からのキャリア教育の積み重ねが現れてきており、キャリア教育に対する小学校と中学校の先生たちの考え方が繋がっているのかなという部分が垣間見れた。

(本川教育指導参事)

キャリア教育のつながりについてはデータをとっていないが、各教科における授業での話し合い活動や、対話的な部分を国語に限らず全教科で行っているという点で、即興的に受け答えをする力が子どもたちに備わってきている。キャリア教育のみならず全ての教科の成果が表れてきていると感じている。

(小出委員)

キャリア教育だけではなく、学校で行うこと全てがキャリア教育に繋がっているということとを以前、学校で拝見したときに教頭先生が話していた。

キャリアシンポジウムの進行については、子どもの質問とそれに対する答えをもっと聞きたいと感じた。時間の制限はあると思うが、次年度以降検討していただきたい。

(大山委員)

中央図書館で見学した後、北中学校に行き、子どもたちの話し合い活動を見せてもらったが、北中学校は学年限定でなく、1、2、3年生それぞれの教育課程の中にキャリアシンポジウムを系統的に位置付けて全体計画を作った。非常に参考になるのではないかと思ったので、北中学校での実践を北中学校だけの取組みにしないで、他の学校にも教育委員会から紹介していただきたい。

(岡部教育長)

中学校でのキャリア教育にキャリアシンポジウムとジョブカフェが加わったことにより、特に充実してきている。もともと小学校においては、チャイルド1Dayなどがあったが、中学校では職場体験的なことしかなく、それがJCの協力でこういった事業を加えることができたというのは、釧路市のキャリア教育にとって大きなことだと思う。

(靱山委員)

運動会について保護者の話を聞く機会があり、午前開催が当たり前という認識になっていて、午前中に対しマイナスなイメージはなく、子どもたちも当たり前になっている様子であった。午前中が単純に良いということではないが、運動会も修学旅行も学校間で時間や日数が異なるより、統一した方が良いのではないかと思った。

キャリアシンポジウムについては同じように見せていただき、子どもたちからのダイレクトな質問にお答えになる岡部教育長たちは本当に大変だと思った。北中学校でも見学させていただいたが、話しを聞いて感じたことがしっかりと書かれていたので、本当に有意義な時間を子どもたちは与えてもらえていると感じた。今回2年続けて中央図書館で話しをしているところを見学させていただいたが、来年度は中学校の雰囲気を感じて、実際に中学校でオンラインを行っていただきたいと思った。

(岡部教育長)

開催中の質問はあの程度だが、生徒一人一人からの質問が間もなく届く予定になっており、実は私がそれに対して全員に返答している。

(山口委員)

質問は岡部教育長だけでなく、小向理事長のところにも届いているのか。

(岡部教育長)

小向理事長のところにも届いている。

(山口委員)

授業時数と授業進度の適切な管理に関する記載についてであるが、以前は授業時数が不足しているので、授業時数を確保するよう道教委や文科省から指導があったように記憶しているが、今は授業時数が多くても指導を受けるものなのか。また土曜活動日が設けられた目的の一つにコミスクとの関係があり、地域の方々との交流をより深めるための活動日として設定するものであったと思うが、その他の目的として授業時数の確保のための土曜活動日という側面もあったと思う。その辺の実態と今後の方向性はどのように考えているか。

(本川教育指導参事)

授業時数の指導について、以前は標準時数を下回らないようにという指導であったが、授業時数が増加傾向であったため文科省が授業時数の適正管理について公表している。各学校においては適切に管理を行っていただいているところであるが、その中で基準を超えた学校があったということで、担任に任せるのではなく、しっかりと管理職にて管理するようにということで記載させていただいた。

土曜活動日について私が記憶しているところでは、社会に開かれた教育を展開するために土曜日の子どもたちの活動を可能であれば、地域に公開してほしいということでスタートしたと記憶している。

昨今ではコロナも含めて感染症で学級閉鎖になり、時数が足りなくなった部分で土曜日に通常の授業を実施して、授業時数を確保するということもあったかと思うが、現段階で土曜活動については、教育委員会内部で廃止や縮小といった部分の議論はしていない。

(山口委員)

授業時数を確保するために、例えば特別活動である委員会活動も窮屈になってきているという学校事情もあったように記憶しているが、そういったものを充実させるという考え方は復活しないか。

(本川教育指導参事)

その流れはあるが、例えば小学校も中学校も毎朝、職員朝会をやるというのは、以前は通常どこの学校も行っていたが、今は小学校もほとんど行っていない。夕方の打合せも減ってきており、放課後の時間帯を使うという場面でも、時代の流れとともに学校自体が変わってきている。そういった中で授業時数を確保しやすくなってきており、特別活動に付随する児童生徒会活動や委員会活動も時間を取りやすくなり、子どもに委ねるところが多くなってきているところである。今後も世の中の流れを見ながら、そのあたりは十分研究していかなければならないと認識している。